病膏肓に入る

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　／28）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この話の山は「膏肓（こうこう）」の読み、使役「使」、反語「若我何」、そして景公・二豎子・医緩の三者の区別**です。

あらすじ＝晋の景公は病気が重くなり、隣の秦の国に医者を求める。秦の君主は名医の緩を送る。緩が着く前、景公は夢を見る。病気が二人の子どもの姿になり、「あの名医に傷めつけられそうだ、どこへ逃げよう」「肓の上、膏の下にいれば、どうにもできまい」と相談していた。到着した医緩は「病は肓の上、膏の下にあり、灸も鍼も薬も届かない。治療できない」と診断する。景公は「良医だ」と言い、手厚くお礼をして秦へ帰した。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

公（こう）の①疾（やまひ）病（へい）なり。②医（い）を秦（しん）に求（もと）む。秦伯（しんぱく）③医緩（いくわん）をして之（これ）を為（をさ）めしむ。④未（いま）だ至（いた）らざるに、公夢（ゆめ）に、疾⑤二豎子（にじゆし）と為（な）りて曰（い）はく、「⑥彼（かれ）は良医（りやうい）なり。我（われ）を傷（きず）つけんことを懼（おそ）る。⑦焉（いづ）くにか之（これ）を逃（のが）れん。」と。其（そ）の一（いつ）曰はく、「⑧肓（くわう）の上（うへ）、膏（かう）の下（した）に居（を）らば、⑨我（われ）を若何（いかん）せん。」と。

医至（いた）りて曰はく、「⑩疾（やまひ）為（をさ）むべからざるなり。肓の上、膏の下に在（あ）り。⑪之（これ）を攻（せ）むるも可（か）ならず、⑫之に達（たつ）せんとするも及（およ）ばず、⑬薬（くすり）至（いた）らず。為むべからざるなり。」と。公曰はく、「⑭良医なり。」と。⑮厚（あつ）く之（これ）が礼（れい）を為（な）して之を帰（かへ）す。

語注　公＝晋（しん）の景公（けいこう）。晋の国の君主。疾＝病気。病＝病気が重くなること。秦伯＝秦（しん）の国の君主。「伯」は諸侯の位（爵位）の一つ。医緩＝秦の名医。「緩（かん）」が名前。為（おさ）む＝ここでは「治療する」。豎子＝子ども・こぞう（「竪子」とも書く）。良医＝腕のよい医者。膏＝心臓の下の部分。肓＝横隔膜（胸とおなかを分ける膜）の上の部分。どちらも体の奥深くで、治療が届きにくいと考えられた所。攻む＝ここでは、お灸（きゅう）など火を使う治療で病気を攻めること。達す＝ここでは、鍼（はり）を病気のところまで届かせること。礼＝お礼のもてなし・贈り物。※「膏」「肓」の場所の説明は本によって少しちがいます（古い注釈には「肓は鬲（かく＝横隔膜）なり。心の下を膏と為す」とあります）。お使いの教科書に合わせてください。※白文の「求医于秦」の「于」を「於」とする本もあります。どちらも置き字で、読み方は同じです。※書き出しの「公疾病」は「公の疾（やまひ）病（へい）なり」のほか、「公疾病（しつぺい）なり」と読む本もあります。お使いの教科書に合わせてください。※ほかにも、教科書によって書き下しが少しちがうところがあります。「懼傷我」を「懼（おそ）らくは我を傷つけん」、「公夢」を「公夢（ゆめ）みる」、「其の一」の「一」を「いち」、「攻之不可」を「之を攻むるは不可なり」、「達之不及」を「之を達せんとするも及ばず」、「帰之」を「之を帰らしむ」と読む本もあります。意味は同じです。お使いの教科書に合わせてください。

病膏肓に入る

A　語句の意味と読み（1〜6）

(1) ①「疾（やまひ）病（へい）なり」の「病」は、ここではどのような意味か。「疾」とのちがいがわかるように書け。

(2) ③「医緩（いくわん）をして之（これ）を為（をさ）めしむ」の「為」は、ここではどのような意味か。

(3) ⑤「二豎子（にじゆし）と為（な）りて」の「豎子」の意味を書け。

(4) ⑧「肓（くわう）の上（うへ）、膏（かう）の下（した）に居（を）らば」の「膏」と「肓」は、それぞれ体のどのあたりを指すとされるか。

(5) ⑧の「膏」「肓」を合わせた語「膏肓」の読みを、現代仮名遣いで書け。また、これを「こうもう」と読むのはなぜ誤りか説明せよ。

(6) ⑪「之（これ）を攻（せ）むるも可（か）ならず」の「攻」と、⑫「之に達（たつ）せんとするも及（およ）ばず」の「達」は、それぞれどのような治療を指すと考えられているか。

B　句法（7〜12）

(7) ②「医（い）を秦（しん）に求（もと）む」の白文は「求医于秦」である。「于」のように、書き下し文では読まない字を何というか。また、ここでの「于」の働きを書け。

(8) ③「医緩（いくわん）をして之（これ）を為（をさ）めしむ」の白文は「使医緩為之」である。この句法の名前と、「AをしてBしむ」の意味を書け。

(9) ④「未（いま）だ至（いた）らざるに」の「未」は何と呼ばれる字か。読み方と意味もあわせて書け。

(10) ⑦「焉（いづ）くにか之（これ）を逃（のが）れん」の「焉」の読みと意味を書け。また、⑬「薬（くすり）至（いた）らず」の白文「薬不至焉」の文末の「焉」とは、どうちがうか説明せよ。

(11) ⑨「我（われ）を若何（いかん）せん」は、白文では「若我何」である。「若A何」の読み方と意味を書け。また、ここは疑問・反語のどちらか。

(12) ⑩「疾（やまひ）為（をさ）むべからざるなり」の白文は「疾不可為也」である。「不可〜」の読み方と、ここでの意味を書け。また、文末の「也」の読みと働きも書け。

C 主語・指す内容（13〜17）

(13) ③「医緩（いくわん）をして之（これ）を為（をさ）めしむ」の主語は誰か。また、「之」は何を指すか。

(14) ④「未（いま）だ至（いた）らざるに」とあるが、まだ到着していないのは誰か。

(15) ⑥「彼（かれ）は良医（りやうい）なり」の「彼」と、⑦「焉（いづ）くにか之（これ）を逃（のが）れん」の「之」は、それぞれ誰を指すか。

(16) ⑨「我（われ）を若何（いかん）せん」の「我」とは誰（何）のことか。

(17) ⑮「厚（あつ）く之（これ）が礼（れい）を為（な）して之を帰（かへ）す」の主語は誰か。また、二つの「之」はそれぞれ誰を指すか。

D 口語訳（18〜21）

(18) ④⑤を含む「未だ至らざるに、公夢に、疾二豎子と為りて曰はく」を口語訳せよ。

(19) ⑥⑦を含む「彼は良医なり。我を傷つけんことを懼る。焉くにか之を逃れん」を口語訳せよ。

(20) ⑧⑨「肓の上、膏の下に居らば、我を若何せん」を口語訳せよ。

(21) ⑪⑫⑬を含む「之を攻むるも可ならず、之に達せんとするも及ばず、薬至らず」を口語訳せよ。

E　内容・記述（22〜25）

(22) ⑤「二豎子（にじゆし）と為（な）りて」とあるが、夢に出てきた二人の子どもの正体は何か。また、この夢の場面は、あとの医緩の診断とどのようにつながっているか。説明せよ。

(23) ⑩「疾（やまひ）為（をさ）むべからざるなり」と医緩が判断したのはなぜか。本文に即して四十字以内で書け。

(24) ⑭「良医なり」とあるが、「治せない」と言われたのに、景公が医緩を「良医」と認めたのはなぜだと考えられるか。五十字以内で書け。

(25) ⑮「厚（あつ）く之（これ）が礼（れい）を為（な）して之を帰（かへ）す」から、景公の医緩に対するどのような態度が読み取れるか。説明せよ。

F　文学史・故事（26〜28）

(26) ⑧「肓（くわう）の上（うへ）、膏（かう）の下（した）に居（を）らば」の話から生まれた故事成語「病膏肓に入る」の意味を、二つ書け。

(27) この話の出典の書名と、その書物がどのような本なのかを書け。また、この話が記されているのは「何公の何年」の記事か。

(28) 夢に出てきた二人の豎子から、「病気・病魔」を意味する二字の語が生まれた。その語を書け。

【テスト直前チェック】この三つ　❶「膏肓」は「こうこう」。「肓」を「盲」と見まちがえて「こうもう」と読むと即アウト。本文の順は「**肓の上、膏の下**」で、成語の「膏肓」と順番が逆になる点にも注意。　**❷「若我何」は「我を若何（いかん）せん」。**「私たちをどうすることができようか、いや、どうにもできない」という反語。様子をたずねる「何如（いかん）」と区別する。　**❸同じ「焉」でも働きがちがう。**「焉逃之」の「焉」＝いづくにか（どこへ）、「薬不至焉」の「焉」＝文末の置き字。記述問題は「なぜ治せないのか」「なぜ良医なのか」の二つに集まります。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる